

支部会報告

「第29回関東地区研究集会」報告

関東支部長 高橋淳

(ミュージアムパーク茨城県自然博物館)

2000年11月25日(土)14時～17時に、国立天文台三鷹キャンパスを会場に関東地区研究集会が開催されました。開催テーマは「天文社会に明るい未来はあるのか?—21世紀の天文普及を考える—」です。近年では、しし座流星群やヨーロッパ皆既日食など一般の人々の天文学への関心も一時的には高まりましたが、一方では、渋谷の五島プラネタリウムの閉館や天文雑誌を含む科学雑誌の休廃刊という残念な話題が続きました(すでに「スカイウォッチャー」は「星ナビ」として、再出発を遂げましたが)。そこで、現在の“天文社会”を取り巻く状況や今後の見通しなどについて議論してみたいと考え、この研究集会を開いたものです。

研究会には、約20名の参加者がありました。まず、田部一志((株)リブラ)、縣秀彦(国立天文台)、根岸潔(都立多摩高校)の3氏より基調講演をいただきました。田部氏は、「天文は文化たりうるか?」というテーマで、近年におけるプラネタリウム館の設立状況と入館者の推移からみられるここ10年間の入館率

の減少を報告し、欧米諸国の社会教育施設と比較しながら今後の天文界の課題について話されました。縣氏は、「21世紀の天文学の動向」と題し、天文学にかかる国家予算や天文学者の年齢構成等のデータを紹介しながら、他の科学分野に比べると天文学は良い評価が得られていることについて報告されました。根岸氏は、「WG活動と新学習指導要領」という題で、文部省「学習指導要領協力者会議」メンバーとしての立場から、本研究会の学習指導要領WGで提案された学習内容が、2003年度より採用される高校地学の学習指導要領に反映されるに至ったことについて報告されました。この基調講演をもとに行われたパネルディスカッション(コーディネーター:永井智哉氏(国立天文台))では、今後の天文普及や教育のあり方について様々な意見交換がなされました。

また、佐藤明達氏「数学・物理抜きで天文学は在るか?」、鈴木文二氏「高校地学実習帳CD-ROM」の2本の研究報告もありました。

閉会後には、本会と平行して行われていた「太陽望遠鏡ワークショップ2000」の懇親会に参加した方も多く、本研究会会員外で天文に携わる方々とも交流を深めることができました。野外では国立天文台の観望会(一般公開)も行われており、大変充実した1日となりました。なお、同天文台天文情報普及室の皆様には会場担当者として大変お世話になり、御礼申し上げます。

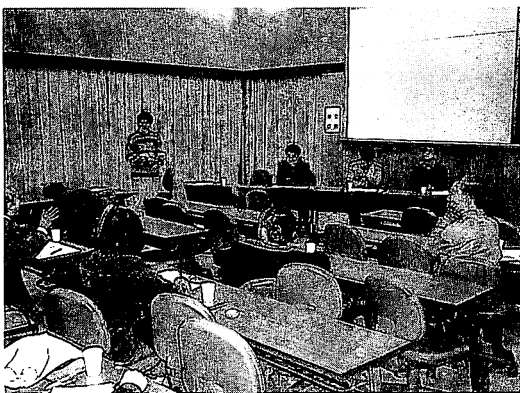


図. 関東地区研究集会の様子

第2回近畿支部例会報告

近畿支部長 矢治健太郎
(かわべ天文公園)

12月16日(土)の午後、京都市立堀川高校を会場に、第2回近畿支部例会が行われました。参加者は31名で、うち会員が17名・非会員が14名でした。初めてこの会に参加される方も多く見受けられました。サイト報告も入れると12の発表・報告が行われ、非常に盛況でした。

京都を会場に行うということで、京都大学富田氏から「京都天文めぐり」と題して、京都ゆかりの天文に関係した史跡、民俗・宗教、伝承、文献の調査活動を紹介してもらいました。また、この11月に京大花山天文台の一般公開があり、そのことも報告してもらいました。また、洛星高校や堀川高校の高校生らの発表が目を引き、新鮮に感じました。堀川高校の生徒の発表は、昨夏、国立天文台三鷹で行われた「君が天文学者になる3日間」で行われたものだということでした。

そのほか、明石市立天文科学館の井上氏の「20世紀をふりかえる-1900年代の天文学ベスト10」も注目をひいた発表でした。8月の来館者700人にアンケートした結果をまとめた

もので、1位は「アポロ11号、月に着陸」ということでした。その他詳細は以下の通りです(敬称略)。

<京都天文案内>

- ・京都天文めぐり(京都大学・富田)
- ・洛星高校での流星観測(洛星高校)
- ・Be星(δ Sco)の観測(堀川高校)
- ・京大花山天文台の一般公開(京大花山天文台・森本)

<学校教育・プラネタリウムなど>

- ・大阪府立大学の電波観測実習報告(大阪府立大学・米倉)
- ・スペクトル博物館電波編(西はりま天文台公園・尾林)
- ・20世紀をふりかえる-1900年代の天文学ベスト10(明石市立天文科学館・井上)
- ・ガリレオ望遠鏡の再現(大阪府・秋山)
- ・プラネタリウム国勢調査(かわべ天文公園・矢治)
- ・学習指導要領について(塔南高校・留岡)

<サイト報告>

- ・京都市立青少年科学センター(堀川高校・中山)
- ・宇治市総合野外活動センター・アクトパル宇治(岡根)

最後に、堀川高校のスライディンググループ式の天体観測室と、ソーラーパネル施設を見学させていただきました。結果として話題豊富になり、人によっては、発表時間が不十分になってしまいましたが、総じて非常に盛り上がり、活気にあふれていたと思います。「非常に刺激になった」とコメントして帰られた

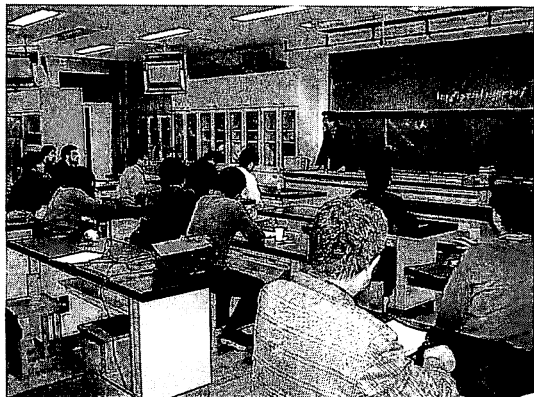


図. 近畿支部例会の様子

方もいました。

最後に会場の手配をしていただいた堀川高校の中山浩氏にこの場を借りて感謝いたします。

(世話人コメント)

上記の通り、今回31名の参加者があり、近畿支部会としては、久々に多くの方が参加しました。しかもその内訳を見ると、科学館・公共天文台職員7名、大学教官7名、高校教員6名、小学校教員2名、大学生及び大学院生4名、中高生4名、その他1名と参加者層

は幅広くなっています。これは、はがき案内だけでなく様々なメーリングリストでの案内を活用したこと、関心を引く話題が多かった、ことが考えられます。実際、TENNET(日本天文学会のML)を通して、この会合のことを知った方もいました。

また、参加者の所属で判断すると、府県別では、京都20人、兵庫3人、大阪6人、滋賀1人、和歌山1人と、地元の京都からの参加者が多く見られました。これは地理的にアクセスしやすい場所だったのが要因だと思います。ご参考までに。



第9回九州支部集会報告

九州支部長 仲野誠

(大分大学教育福祉科学部)

九州支部の9回目の集会在2000年12月16日(土)の14時から鹿児島大学郡元キャンパスの共通教育棟1号講義室で開催されました。発表プログラムは以下の通りです。

- ・公共天文施設から一言
百武裕司(スターランドあいら)
- ・高校での市民向け天文講座
前田利久(鹿児島県立錦江湾高校)
- ・デジカメで写る星空、ミラキャンペーンに参加して
艶島敬昭(熊本県民天文台)
- ・鹿児島でのHOU活動とユニバースの実践

- 吉田陽一(鹿児島県立頴娃高校)
- ・環境アドバイザーと環境カウンセラー
松本直弥(長崎県天文協会)
- ・鹿児島大学VERAサイトの報告
面高俊宏(鹿児島大学理学部)
- フリー討論
- ・全国集会について
宮脇亮介(福岡教育大学)
- ・今後の支部および支部集会の運営について
仲野 誠(大分大学)

彗星発見で著名な百武さんは現在、公共天文施設であるスターランドあいら(鹿児島県始良町)で館長をされています。その百武さんには、理想と現実とのギャップ、運営や人事を握っている役場との対応に苦勞されている様子、マスコミへの対応などについての裏話をさせていただきました。高校地学教諭の前田さんは県内成人向け市民講座の1つとし



図1. 鹿児島集会参加者

て、自ら中心となって開かれた天文講座「宇宙」(定員30名、15回)の経験を紹介されました。外部講師の方をお願いしたり、望遠鏡の作成などを組み入れることで工夫されているようです。集会参加の常連である艶島さんは「お金はないけども最先端で遊びたい」ということで、様々な工夫や他団体との協力でアマチュアの天文台として活動されている様子を豊富な話題と共に生き生きと発表していただきました。鹿児島は、最先端の情報機器を用いて天文学のおもしろさを伝えるJAHOUの試みと東京北の丸で行われているUNIVERSEの出張によるライブショーも活発に行われていますが、その活動の様子は吉田さんから紹介していただきました。長崎から参加の松本さんは「環境」という切り口での普及活動というユニークな視点からの講師派遣、カウンセラーの制度について話されました。また日食等のビデオも持参され、美しい映像も堪能させていただきました。今回、会場を提供していただいた面高さんからは鹿児島に建設中のVERA電波望遠鏡ともうすぐ着工予定の光学望遠鏡についてユーモアを交えて紹介をいただきました。

以上のそれぞれの発表の後、宮脇さんが今年福岡県夜須町で開催される予定の全国集会について報告され、最後に会への意見や要望等を参加者の方々からいただきました。このような会の有効性を支持する声、大学関係者の参加をもっと望む声、社会教育施設関係者にも参加しやすい状況をつくって欲しいなどの要望、今の支部集会の名称としてもっと親しみやすい名称はないかななどの意見がありました。一方、面高さんからは鹿児島大学で建設される光学望遠鏡の利用・運営への様々な人材を期待する旨の意見も出されました。本支部集会は今回の鹿児島でやっと沖縄を除く九州全県を回ることができ、世話人としてほっとしています。私自身も九州地区で天文普及に取り組むアマチュア、天文教育に熱心

な教育関係者や研究者、天文施設関係者のネットワークの場になりつつあることを実感することができました。

参加者数は30名(うち会員は8名)でしたが、例年どおり集会は予定時刻を越えるまで続き、その後西鹿児島駅近辺で盛大な懇親会がもたれました。翌17日の午前中は雨模様のあいにくのお天気でしたが、エクスカッションとして、鹿児島大学から車で約40分のところにある鹿児島大学の入来牧場(VERAサイトおよび光学望遠鏡建設予定サイト)へ鹿児島大学理学部宇宙コースの方々の案内で希望者10数名が向かいました。前日、以前の入来牧場の風景写真をOHPで見せられていたのですが、それとくらべての大きな変容に参加者全員感銘を受けていたようでした。残念ながら霧がたちこめて周囲はよく見えませんでした。すでに組み上がりつつある電波望遠鏡の上に登ったりしながら説明を受けたり、記念撮影を行ったりした後、現地で解散しました。

本集会の開催には面高さんをはじめとする鹿児島大学理学部宇宙コースの皆さん、会員の前田さんをはじめとする鹿児島県天文協会の方々にお世話になりました。

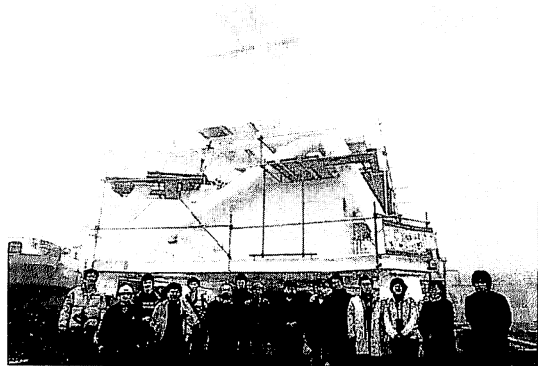


図2. VERA 鹿児島サイトで建設中の電波望遠鏡と

日本天文学会 2001 年春季年会「天文教育フォーラム」のご案内

浜根寿彦（県立ぐんま天文台）

日時・場所：

日本天文学会の 2001 年春季年会の期間中
（2001 年 3 月 26 日～28 日）
（詳細は 1 月中旬に決定されます）

テーマ：

『課外活動における天文教育』

概要：

最近、小・中・高校のクラブ活動や大学の
実習、公開天文台の事業などで、天文の学習
活動の機会が増えています。また、少年団な
どの社会教育団体でも積極的に学習活動
を行っています。

初等・中等教育においては体験学習が重視
されるとともに、題材を柔軟に選択して子
どもたちの興味・関心・意欲の喚起や思考力
の養成を目指す「総合的な学習の時間」が本
格的に導入されようとしています。これに
対応して、社会教育施設と学校との連携が
重視されるようになってきました。また研
究機関や大学の研究室にも学校から問
合せがあるなど、「総合的な学習の時間」
導入に伴う動きが始まっているようです。

昨今のこのような状況は、「総合的な学
習の時間」を含めた学校教育や大学教育、
社会

教育団体における天文学習活動の位置
づけを見据えつつ、天文コミュニティー
として、21 世紀初頭の天文教育や普及
活動にどのように関わっていくかを
探る良い機会として捉えることが
できます。

そこで今回のフォーラムでは、特に
天文の課外学習活動の現状を紹介する
とともに、公開天文台や科学館など
の社会教育施設や社会教育団体が
課外学習活動に果たし得る役割、
天文コミュニティーの関わり方につ
いて、次の時代に向けての実りある
実践に結びつくような議論を行
いたいと思います。

参加費：

年会会期中の行事ですが、＜天文
教育フォーラムのみの参加者＞は
参加費（年会基本登録料）不要
です。年会受付で「天文教育
フォーラムのみに参加します」と
お伝えください。

実行委員：

浜根寿彦（県立ぐんま天文台）
高橋淳（ミュージアムパーク茨城県
自然博物館）
山縣朋彦（文部省）
吉川真（宇宙科学研究所）

「第 2 回 ジュニアセッション」を開催します

吉川真（宇宙科学研究所）

昨年（2000 年）の日本天文学会
の春季年会（2000 年 4 月、東京
大学本郷キャンパス）では、中
学生・高校生が天文学に関する
研究発表をする「ジュニアセ
ッション」というものを開催
しました。初めての試みでしたが、
非常によく研究され、その上レ
ベルも高い 17 件の発表が

ありました。口頭セッションには
250 名を超える参加者があり、
会場からあふれるほどでした。
ポスターセッションでも活発な
議論がなされました。

このジュニアセッションの第 2
回目を、2001 年の春季年会で
開催します。

- ◆主催：日本天文学会
共催：天文教育普及研究会
後援：日本惑星協会
- ◆日時：日本天文学会の2001年春季年会の期間中（2001年3月26日～28日）
 - ・口頭発表は3月26日に行うことを検討中です。
 - ・ポスター発表は会期中を通して掲示することを検討中です。
- ◆場所：千葉大学（JR総武線西千葉駅より徒歩約10分）
 - ※発表の日時・建物・部屋の詳細は、2001年1月中旬に決まります。
- ◆講演申込：すでに締め切りました。
- ◆参考：
 - ・ジュニアセッションに関する情報は、日本天文学会のホームページに掲載されて

います。（<http://www.asj.or.jp/> にアクセスして「年会」をクリックしてください。）
 ・第1回のジュニアセッションの講演内容（一部）は、日本惑星協会のホームページに掲載していただいております。

（<http://www.planetary.or.jp/>）

- ◆ジュニアセッション世話人：
縣秀彦、小野智子、鈴木文二、永井智哉、西山広太、長谷川直子、山岡均、吉川真、渡部潤一
- ◆問い合わせ先：
吉川 真（世話人代表）
〒229-8510 神奈川県相模原市由野台
3-1-1 宇宙科学研究所
TEL & FAX：042-759-8341
e-mail：makoto@pub.isas.ac.jp

「第15回天文教育研究会」のご案内

暫定実行委員長 宮脇亮介

21世紀最初の天文教育普及研究会年會を福岡教育大学を事務局として開催することになりました。

現状ではほとんど、なにも決まっていますが、会場などが限られるために今年とほぼ同様な日程になります。また、会期を事務局と相談の上、2泊3日といたしました。

期日と会場のみですが、予定に組み込んで置いてください。

記

- 期日：2001年8月5日（日）～7日（火）
＜2泊3日＞
- 会場：国立夜須高原少年自然の家（福岡県朝倉郡夜須町大字三箇山1103）
（<http://www.nyc.go.jp/jpn/shisetsu/yasu/101.html>）
- 交通：公共交通機関利用：西鉄バス篠隈から車で20分

経費：未定

定員：70名程度を予想しています。（施設の関係で参加登録を早めにする予定です）

資料：標高300～400メートルの夜須高原に位置する社会教育施設。敷地面積は100haあり、400人が宿泊できる建物をはじめ創作室や学習室、キャンプ場などが整備されている。自然観察や野外活動など自然の中でのびのびと活動できる。

問い合わせ先：

福岡教育大学理科教育 宮脇亮介
〒811-4192 福岡県宗像市赤間729-1
TEL 0940-35-1359 FAX 0940-35-1740
なお、年會のホームページをもうけました。
<http://www.fue.fukuoka-edu.ac.jp/~sciedu/tenkyo/>
ご参照下さい。



渡部義弥 (大阪市立科学館)

ヘッドライン NEWS

日付	カテゴリー	ニュース内容	情報源
11月15日(水)	天文現象	北海道などで低緯度オーロラが見られる ★太陽の活動もこのころ極大か	関係者
11月17日(金)	天文現象	しし座流星群極大 ★アーマー天文台のアッシュャー氏の予測モデルがほぼ的中。このモデルによると、来年11月19日午前3時ごろに、日本で流星雨が見られる	
11月18日(土)	宇宙探査	土星に新たな衛星2個発見される フランスの天文学者チーム 合計24個へ ★え? また見つけたの、、、と驚いていたら、	NAO Web
11月22日(水)	教育行政	大学教育審議会答申 グローバル化時代に求められる高等教育の在り方について	文部広報
11月25日(土)	宇宙探査	木星に新たな衛星発見される ハワイ大学のチーム 合計18個	NAO Web
12月1日(金)	宇宙探査	ケレスを超える大きさ?のカイパーベルト小惑星2000 WR106発見 アリゾナ大学のチーム ★直径推定は(530~1200km)、ケレスは900km程度	NAO Web
12月5日(火)	教育行政	文部大臣・科学技術庁長官に町村信孝氏 ★初代の文部科学省大臣にもなる	文部広報
12月5日(火)	教育行政	文部総括政務次官に河村健夫氏 ★副大臣ポストぶくみの役職	文部広報
12月19日(火)	宇宙探査	土星に新たに5個の衛星発見される フランスの天文学者チーム 合計29個へ ★今年だけで、土星の衛星の数が11個も増えてしまった。	NAO Web
12月20日(水)	天文施設	プラネタリウム番組制作ソフト「ももんが」発表 本会の蓮井氏 ★汎用の星空ソフトとしても使える、本誌の表紙とともに以下に http://www.d1.dion.ne.jp/~yamaneco/	蓮井氏 Web
12月22日(金)	天文現象	こぐま座流星群 突発出現はなし ★一時間数10個程度の突発出現の可能性が指摘されていた	関係者
1月6日(土)	教育行政	文部科学省発足 文部省と科学技術庁が合併 ★科学館協議会など各種の業界団体、外郭団体の再編が予想される	文部広報
1月27日(土)	イベント	宇宙科学研究所・宇宙学校 相模原市立産業会館にて	ISAS Web
1月28日(日)	理科教育会合	シンポジウム 教科「理科」を改めて問う 奈良教育大にて	地学教育誌
2月3日(土)	イベント	国立天文台公開講座「宇宙を解き明かす21世紀の電波天文学」 国立天文台三鷹にて ★今年から、三鷹市民以外にも公開	NAO Web
2月4日(日)	イベント	宇宙科学研究所・宇宙学校 東京大学教養部にて	ISAS Web
2月11日(日)	天文学会合	第2回先事館シンポジウム「21世紀の宇宙をさぐる」 ~12 大阪市立科学館にて ★天文学者のほか、SF作家、高校教諭など16人のパネリスト	主催者
2月26日(月)	天文学会合	ぐんま天文台研究会「エシエル時代の高分散分光観測」 ~27 ぐんま天文台にて	主催者
3月11日(日)	天文施設	天文博物館五島プラネタリウム閉館 ★ファンの手によって、卒業文集が発行される	関係者
3月19日(月)	天文教育会合	Sri Lankan Skies & Sir Arthur - 2001 : A space Odyssey スリランカプラネタリウムにて ~24 ★2001年宇宙の旅の作者、アサー・C・クラーク氏が全面協力	主催者

日付	カテゴリー	ニュース内容	情報源
3月26日(月)	天文学会合	日本天文学会 春季年会 千葉大学にて ~28 ジュニアセッションも開催される	天文学会Web
3月26日(月)	天文教育会合	天文教育フォーラム 課外活動における天文教育 天文学会会場にて	主催者
7月10日(火)	天文学会合	IAUシンポジウム208 Astrophysical Supercomputing using Particle Simulations 東京大学本郷山上会館にて ~13	主催者
8月5日(日)	天文教育会合	第15回天文教育研究会 福岡県・国立夜須高原少年自然の家にて ~7 ★21世紀の天文教育の展望が見えるか? 多くの参加が望まれる	主催者

最近出版された天文関連書・ソフトなど (価格は税抜き)

書名	著者等	出版社	価格	ISBN
藤井旭の天文年鑑 2001年版	藤井旭	誠文堂新光社	¥600	4-416-20016-1
やさしい天体観測	渡部潤一	ブティック社	¥700	4-8347-1574-4
両さんの天体大達人	秋本治	集英社	¥760	4-08-314007-0
生命はどこからきたか	桜井邦朋	お茶の水書房	¥800	4-275-01838-9
月の不可思議学	竹内均	同文書院	¥800	4-8103-8415-2
宇宙船地球号操縦マニュアル	B・フラー	筑摩書房	¥900	4-480-08586-6
天文年鑑 2001年版	天文年鑑編集委員会編	誠文堂新光社	¥900	4-416-20012-9
星空ガイド2001	藤井旭	誠文堂新光社	¥940	4-416-20017-X
科学情報と技術の格言集	太田和男	文芸社	¥1,000	4-8355-0927-7
ケプラー運動は相対性理論を支配する	山本文隆	文芸社	¥1,000	4-8355-0969-2
星座・星空 (ヤマケイポケットガイド20)	藤井旭	山と溪谷社	¥1,000	4-635-06230-9
ブラックホール	前田恵一監修	ナツメ社	¥1,200	4-8163-2806-8
なりたい!!プラネタリアン		Dai-X出版	¥1,200	4-8125-1488-6
理科年表2001	文部省国立天文台編	丸善	¥1,200	4-621-04817-1
プラネタリア	加納真士	ぱるす出版	¥1,200	4-8276-0182-8
親子で楽しむ星空観察	藤井旭	日本放送出版協会	¥1,500	4-14-187786-7
今、知りたい地球と人間	京都科学読み物研究会編	連合出版	¥1,500	4-89772-160-1
大小暦を読み解く	矢野憲一	大修館書店	¥1,700	4-469-23166-5
天才たちの宇宙像	桜井邦朋	吉川弘文館	¥1,700	4-642-05493-6
望遠鏡・双眼鏡カタログ 2001年版	月刊天文編集部編	地人書館	¥1,752	4-8052-0666-7
天文データノート2001	天文ガイド編集部編	誠文堂新光社	¥1,800	4-416-20018-8
南フランス日時計街道	上野秀垣編	クロック文化研究所	¥2,000	4-87221-080-8

- ・掲載ニュースは随時募集しています。上記フォーマットを参考に大阪市立科学館・学芸課・渡部義弥 (FAX:06-6444-5657・電子メール yoshiya@sci-museum.kita.osaka.jp) にご一報ください。各種行事・研究会のPRなども歓迎です。
- ・オススメ本コーナーの執筆者を募集します。特定のごく狭いジャンルについて、定番本、オススメ本を1ページ程度で紹介してください。立候補は上記まで。

小特集 20世紀を知るための天文関連書

20世紀には様々な天文学的発見があり、宇宙観が大幅に変化した。その内容は本郷の特集を見ていただくことにして、ここでは20世紀をふりかえるにあたって役に立つと思われる書籍をご紹介しますことにする。各書「書名」著者等、出版社、価格、ISBN、発行とした。(価格は税抜き)

天文・宇宙に特化したもの

「天文学の20世紀」科学朝日、朝日新聞社、¥1,300、4-02-259727-5、1999年

★最近の話題も載っていて、概観をするのに手頃な一冊

「人類が見た宇宙 ベストショットでたどる20世紀宇宙観の大変革」、ニュートンプレス、¥1,500、4-315-51551-5、1999年

★ビジュアルに振り返るにはこれ

「星日記 私の昭和天文史1924～84」草下英明、草思社、¥2,200、4-7942-0210-5、1984年

★少し古いだが、細かなイベントも載っていて、何かを検索するのに便利。

「20世紀の宇宙像・物質像」吉田伸夫、日本図書刊行会、¥1,500、4-8231-0258-4、1999年

「20世紀の暦 朔望万年暦」黒坂紘一他、光村推古書院、¥3,689、4-8381-0133-3、1994年

★哲学と暦。暦はパソコンソフトのほうの方が便利かもしれない

科学全般

「20世紀理科年表」山口幸夫、岩波書店、¥740、4-00-500297-8、1998年

★安くてお手軽な一冊

「20世紀の大物理学」サプリー、ニュートンプレス、¥3,500、4-315-51546-9、1998年

「20世紀の自然観革命」和田純夫、朝日新聞社、¥1,300、4-02-259678-3、1997年

「20世紀の女性科学者たち」ルイス・ハーバー、晶文社、¥1,573、4-7949-5857-9、1989年

★それぞれテーマをしぼったもの

「20世紀どんな時代だったのか 思想・科学編」、読売新聞社、¥1,800、4-643-99039-2、1999年

「写真でみる20世紀の日本2 科学技術の100年」馬場錬成編、PHP研究所、¥2,800、4-569-68062-3、1997年

「20世紀フォトドキュメント6 科学・学術」ぎょうせい、¥3,107、4-324-02697-1、1992年

「20世紀の歴史 科学・技術(上)」ウィリアムス、平凡社、¥3,368、4-582-49505-2、1992年

「20世紀の歴史 科学・技術(下)」ウィリアムス、平凡社、¥3,368、4-582-49506-0、1992年

★全集モノの一部。どれかひとつそろい持っているとう便利であろう

全般

「早わかり20世紀年表」朝日新聞社編、朝日新聞社、¥1,000、4-02-222017-1、2000年

「まるごとわかる20世紀ブック NHK 週刊子どもニュース」池上彰ほか、日本放送出版協会、¥1,200、4-14-080561-7、2000年

★両方ともコンパクトにまとまっている20世紀新聞、20世紀新聞編纂委員会編、青春出版社、¥1,600、4-413-00610-0、2000年

★ちょっと変わったまとめかたをしている

「TIMEが選ぶ20世紀の100人 上巻」TIME編集部、アルク、¥1,800、4-7574-0151-5、1999年

★この上巻に革命家などとともに科学者が取り上げられている

「20世紀写真で見る世界の100年、日本の100年」集英社、¥6,602、4-08-780222-1、1996年

★一般に衝撃的だった天文・宇宙関係の事件は何であったのかを知るにはこれがいいだろう

事務局からのお知らせ

会長 横尾武夫（大阪教育大学）
事務局 西村昌能（京都府立向陽高等学校）

1. 第15回天文教育研究会（年会）について

第15回天文教育研究会が、実行委員長からの案内にありますように、今年、8月5日から7日にかけて九州地区で開催されます。九州支部のご尽力に報いるよう多数の皆さんの御参加をお待ちしております。

2. 当会の広報体制について

事務局では事務局内に広報担当をもうけ、web 担当者の田中英明さんと協力し、パンフレット・本会HP・雑誌への広報・他機関のMLへの投稿を行いたいと考えます。事務局の広報担当は、今年度については矢治健太郎（かわべ天文公園）が当たります。矢治が情報収集を行いますので、どんどん情報をお寄せください。

情報の送り先：info@luna.obs.misato.wakayama.jp（情報提供専用アドレス）

または、〒649-1443 和歌山県日高郡川辺町和佐 2107-1

かわべ天文台内 矢治健太郎

Fax. 0738-53-1130 Tel. 0738-53-1120

3. 入会者について

以下の方が新しく入会されました。

伊藤信成さん	東京大学木曾観測所	中部	学校、一般普及
大山正光さん	滋賀大学教育学部	近畿	学校
前川郁夫さん	和歌山県大塔村富里小学校	近畿	学校
田口 光さん	県立ぐんま天文台	関東	一般（再入会）

4. 退会者について

次の方が退会されました。

渡邊由浩さん 中部